

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	76人	算数	76人	理科	76人
第5学年	国語	88人	算数	88人	理科	88人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

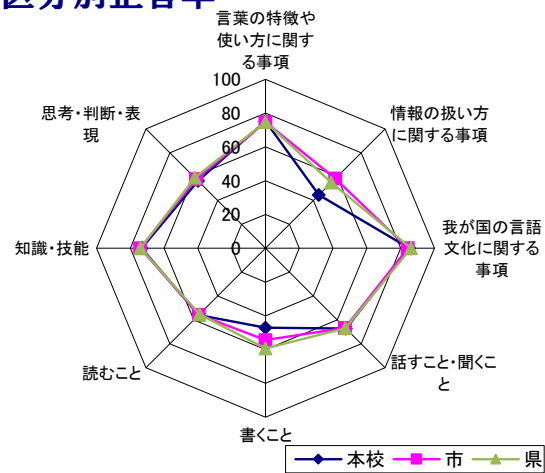
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.2	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	44.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化にに関する事項	85.1	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	67.2	66.7	66.9
	書くこと	47.0	54.3	59.3
	読むこと	55.9	55.6	55.2
観点	知識・技能	73.3	74.1	74.0
	思考・判断・表現	56.5	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

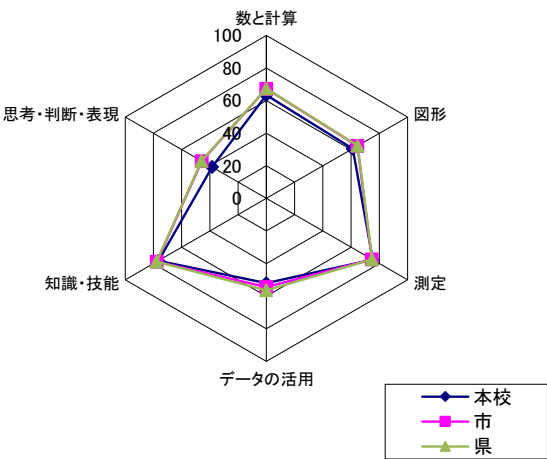
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ローマ字を読むことについての設問の平均正答率は、県の平均を11.2ポイント上回った。 ●3年生で学習した漢字(熟語)を書くことや読むことについての設問の平均正答率が低い設問が多く、特に漢字(熟語)を書くことについての設問は、県の平均を下回った。	・新出漢字の読み方や字形に注意させながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き、朝の学習や家庭学習で取り組めるようにする。また、文章を書く際には、今までに学習した漢字を意識して使うことを習慣付けられるよう、全ての教科の授業において指導していく。 ・語句の意味を理解し、適切に使う力を身に付けられるよう、丁寧に指導する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方についての設問の平均正答率は、13.8ポイント下回った。	・分からない語句は国語辞典を引いて調べる等、国語辞典に触れる機会を増やすように指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字のへんやつくりの名前を選ぶ問題の平均正答率が市の平均よりやや高かった。	・漢字の成り立ちや字の意味を理解できるよう、国語の授業や朝の学習、家庭学習の課題等で漢字辞典の活用を年間を通じて継続的に指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話し合いの内容を聞き取る設問の平均正答率は県の平均より高かった。 ●相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す問題は、県の平均を0.2ポイント下回った。	・話し合い活動を通して話の中心となることがらをメモを取ったり、聞き取った話の内容に対して、共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめたりする場面を繰り返し設定し、聞く力を高めていけるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の平均正答率は市と県の両方の平均を下回った。	・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書の教材文等を活用し、段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を視写する活動を取り入れたりしながら、段落の「型」を理解させる。また、基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けることができるよう、一人一人の子どもの実態に応じた支援も丁寧にやっていく。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉える問題や文章を読んで感じたことやわかったことを共有する問題では、どちらも市や県を上回っている。 ●叙述をもとに文と文のつながりを捉える問題では、市や県を5ポイント下回った。	・物語文については、登場人物の気持ちや言葉・様子・心情の変化などに着目できる指導を行う。 ・読書に親しませたり、文中に出てきた言葉を辞書などを用いて調べる活動を取り入れ、語彙力を高めるとともに、文章を読み解く力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.4	67.3	67.4
	図形	61.1	64.5	64.7
	測定	75.3	74.7	74.9
	データの活用	52.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	76.5	77.6	77.8
	思考・判断・表現	38.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

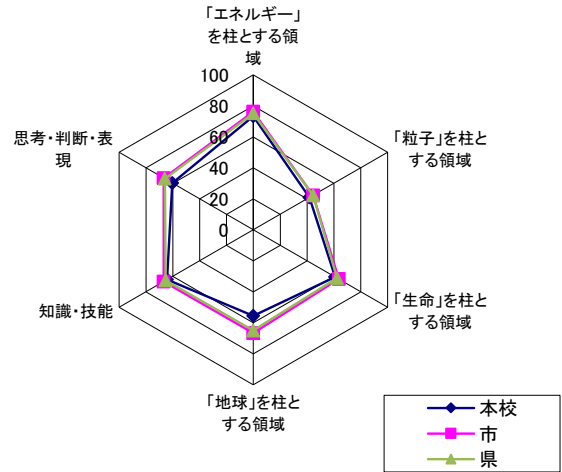
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「大きな数」「少数のしくみ」「2けた÷1けた」「真分数の計算」の問題の平均正答率は、いずれも県や市の平均正答率を上回っており、基礎的な力は身につけていると思われる。 ●「3けた÷3けた」は県と市の平均正答率を10ポイント近く下回った。また、「□を使って問題の場面を図に表す」問題では、平均正答率が33.8%と市の平均正答率を15.6ポイント下回っており、課題がある。	・図を用いて演算決定をしたり計算の仕方を考えたりする活動を充実させ、四則計算の理解を図るようにする。 ・Aドリルを活用し、習熟を図るようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「円の半径と直径」「球の半径」の問題の平均正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同じだった。「二等辺三角形の作図」は、県や市の平均正答率をやや上回った。 ●「円の中心とコンパスの使い方」「円の性質を考えコンパスを使って正三角形の作図を説明する」問題では、平均正答率が市や県の平均正答率を下回り、課題があると思われる。	・具体物を操作する活動を取り入れたり、視覚支援教材を使用したりして、図形の見方や感覚を豊かにしていくことで、図形の性質や構成要素について理解が図れるように指導の工夫をする。 ・互いの考えを聞き合ったり、認め合ったりする場面をもちながら、思考の根拠を適切な言葉で記述できるよう指導していく。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える」問題では、60.8%と市の平均正答率を10.7ポイント上回った。 ●「地図から道のりを読み取り、その和を求める」問題や「重さの単位について正しくないものを選ぶ」問題では、市や県の平均正答率を8～9ポイント下回り課題が見られる。	・量の単位や測定の学習については、日常の中で児童の身近なものに置き換えて学習する場面を取り入れるなど、基礎的・基本的な学習内容を理解できるようにする。 ・長さ、かさ、重さの単位について整理した表から共通する事柄について図や文章にまとめるなどの考察する活動を通して、単位について理解させるような学習活動を今後も十分に行う。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「棒グラフを読み取り、2番目に多いものを答える」問題では、市の平均正答率と同じだった。 ●「目盛りの数が異なる2つの棒グラフを正しく読み取る」問題では、14.9%と、市の平均正答率を8.7ポイント下回り、課題がある。	・同じデータを異なる目盛りの付け方で表したいくつかのグラフを比較する活動を取り入れながら、グラフを正しく読み取る活動を取り入れることで、目盛りに気を付けてグラフを読み取る力を付けるように指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.3	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	41.8	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	60.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	55.5	66.6	64.9
観点	知識・技能	64.3	66.8	65.4
	思考・判断・表現	60.4	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○鏡で反射した光の進み方の問題では、正答率が92.0%と高く、市や県の平均よりも高かった。 ○豆電球に明かりがつく回路を選ぶ問題では、正答率が90.7%と高く、市や県の平均を上回った。 ○糸をつまんだ時の声の伝わり方について正しい内容を答える問題では、正答率が89.3%と高く、市や県の平均を上回った。 ●ゴールに車を止めるために必要だと推測されるゴムを伸ばす長さを選ぶ問題では、正答率が50.7%と低く、市や県の平均を下回った。	・領域内の基礎的知識は定着しているが、それを利用して文章を読み取り、記述する問題を苦手とする児童が多いので文章問題に取り組む機会を増やしたり、実験などを行った際に予想や結果、考察を自分の言葉で考えさせ、友達同士で伝え合う活動を多く取り入れたりしていく必要がある。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ものの重さから、同じ種類の木でできている木でできている積み木を推測できるかどうかを問う問題では80.0%と高く、市や県の平均を約2ポイント上回った。 ●姿勢を変えて測った体重がどのようになるかを選びその理由をこたえる問題では、正答率が2.7%と低く、市や県の平均を約8ポイント下回った。	・応用問題などの文章問題における場面設定になれるために、身近なものに関連した問題に取り組めるようにする。また、どうしてそう考えたのかを理由立てて説明できる力を育てていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○虫眼鏡の正しい使い方を問題では、正答率が30.7%で、市や県の平均を約8ポイント上回った。 ○正しい草丈の測り方を選ぶ問題では、正答率が46.7%で、市や県の平均を約5ポイント上回った。 ●ハウセンカのようなずを観察した順に並べ替えたものを選ぶ問題では、正答率が4.0%と低く、市や県の平均より約10ポイント下回った。 ●クモが昆虫ではない理由を答える問題では正答率が65.3%で、市や県の平均を約4ポイント下回った。	・体験をたくさんしたもののほど知識・理解が深まっているため、今後も植物や昆虫など多くの体験学習を取り入れ、全員が理解できるようにしていきたい。また、問題・予想・計画・観察または実験・結果・考察・まとめの流れをていねいに指導し、体験して得た知識を定着できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●かげと太陽の位置関係についてあてはまる内容を答える問題では、正答率が86.7%と高かったが、市や県の平均よりも約3ポイント下回った。 ●太陽の位置の変化を方位で答える問題では、正答率が25.3%と低く、市や県の平均よりも約10ポイント下回った。	・一日の太陽の動きとかげの動きが理解できるように、生活全体で太陽やかげの動きについて興味をもつような問いや観察の場を作っていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年 児童質問紙調査

晃宝

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童はの割合は88.0%、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は、73.3%と、県の平均と比べて学習の重要性を理解している児童が多い。今後も、宿題や自主学習の充実を図ったり、学習内容と普段の生活を結びつける支援を行ったりして、学習の意欲を高めていきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。」では、「10分以上、30分より少ない」と回答した児童の割合が、市や県の平均よりも高かった。また「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問に関しては「3～4さつ」と回答した児童の割合が高く、市や県の割合を上回っている。今後も学校図書館の積極的な活用や家庭での読書の大切さを促し、読書の大切さや有益さを味わわせるとともに、文章読解力の向上にもつなげていけるように支援を続けていきたい。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができています。」と回答した児童の割合は、94.6%と高く、基本的な話を聞く態度が身に付いている。また、多様な考えを受け入れる態度がうかがえる。今後も児童が意欲をもって取り組めるような話し合いの工夫を行うことで、更に意欲を高めていきたい。

○「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」と回答した児童は、93.3%で県平均と比べて2.9ポイント高く、仕事に対する責任感の高さが見られた。学級活動や児童会活動などを通して、自分の役割の大切さや仕事への満足感を実感させられる活動を今後も続けていきたいと思う。

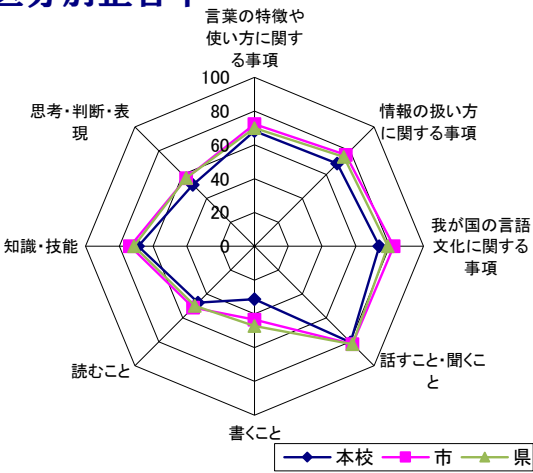
●「毎日、朝食を食べている。」と回答した児童の割合は84.0%で、8割を超えているが、市や県の平均と比べると約3ポイント近く低くなっている。学級活動や給食指導、食育だよりや保健だよりなどでの家庭への啓蒙活動をさらに推進し、今後も食育に関する指導の充実に努めていきたい。

●「地いきや社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童の割合は57.3%と、県や市の平均と比べると10ポイントほど低くなっている。テレビやインターネットなどのニュースを見ている割合は低くはないので、今、社会でどんな出来事が起こっているのか関心をもって見るなど、グローバル化を推進していきたいと思う。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.2	72.3	70.0
	情報の扱い方にに関する事項	69.3	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	73.9	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	80.4	81.9	82.0
	書くこと	31.3	43.5	47.2
観点	読むこと	47.2	51.4	49.8
	知識・技能	68.8	73.6	71.3
	思考・判断・表現	51.5	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

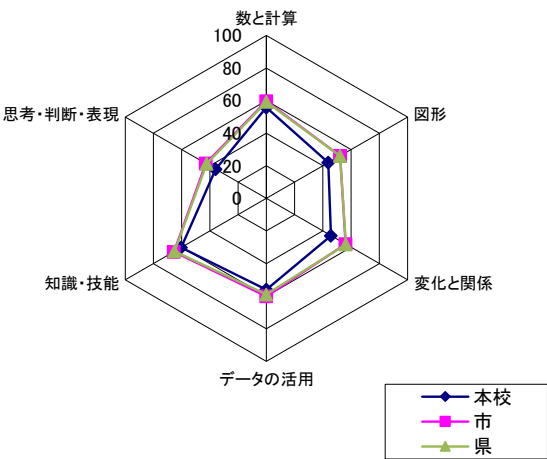
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「漢字を正しく読むことができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は市とほぼ同じであり、学習内容が定着していると考えられる。 ●「修飾と被修飾の関係を捉えることができるかをみる」ことをねらいとした問題では、平均正答率が市の平均よりも低く、無回答率も高い割合にある。	・AIDリルの活用や、教科書の意味調べなどを通して、日常的に漢字や語句に関心をもたせることで言語への理解を深められるよう指導する。 ・普段取り扱う文章の中で、主語・述語の関係を意識しながら学習を進めていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「漢字辞典の使い方をみる」をねらいとした問題の平均正答率は69.3%で、市の平均正答率と比べて7.1ポイント低い。	・題材の導入の際に、辞書を活用し意味調べを行っていることに効果があると考えられるため、活用していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「ことわざの理解と活用をみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は73.9%で、市の平均正答率と比べて8.5ポイント低い。	・自主学習やAIDリルで「ことわざ」や「慣用句」に触れる機会を取り入れることで、定着を図れるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は92.1%で、市の平均正答率と比べて3.0ポイント高い。 ●「意見の共通点に着目して考えをまとめることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は65.9%で、市の平均正答率と比べて4.8ポイント低い。	・小集団や班別活動において話し合い活動を積極的に取り入れる。その際に、相手の伝えたいことを考えながら聞き、自分の意見を伝える活動を取り入れる。また、相手の話していることをメモに取って内容を整理することにより、話の要点をおさえて聞く力を養う。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は34.1%で、市の平均正答率と比べて14.1ポイント低い。 ●「内容の中心を明確にし事実を伝える文章を書くことができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は48.8%で、市の平均正答率と比べて17ポイント低い。	・文章を書く際に、文章校正が容易に行えるように、1人1台端末等を積極的に活用し、文章を書くことに対する抵抗感を減らしていく。 ・国語の説明文の学習の最後に要約する活動を取り入れ、文章の要点を短くまとめる力を養う。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「文章の内容を捉えることができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は37.5%で、市の平均正答率と比べて4.4ポイント高い。 ●「文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができるかどうかをみる」ことをねらいとした問題の平均正答率は44.3%で、市の平均正答率と比べて10.7ポイント低い。	・文章構成を考えながら「要旨」にたどり着くことができるように、事実と意見を区別しながら順を追って丁寧に読み取る活動続けることで、読み取りの力を付けるようにする。 ・文章を読んで感じたことや考えたことをグループや全体で共有したり、登場人物の心情が表れている言葉や表現に触れたりすることにより、物語全体の理解を深められるように学習を進めていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	55.8	59.7	59.2
	図形	43.9	52.1	52.1
	変化と関係	45.7	56.1	56.3
	データの活用	56.0	60.1	58.9
観点	知識・技能	60.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	36.0	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

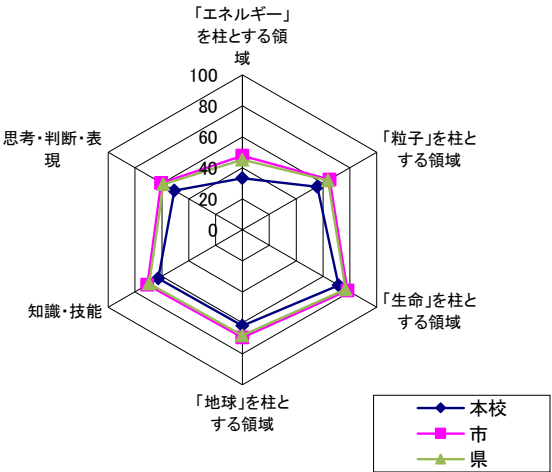
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○●「小数」では小数のしくみを理解しているかをみる問題で市の平均を4ポイント上回ったが、そのほかの問題においては市・県平均値を約3～5ポイント下回っている。 ●「計算のきまり」に課題が見られ、特に四則混合の式の計算の順序を理解しているかをみる問題では市・県平均値を約10ポイント以上下回った。	・朝の学習の時間に、四則混合の式の計算を中心に既習事項の復習をするようにプリント学習を行う。 ・計算の習熟を図るため、宮っ子ステップアップシートやAIDリルなどを活用する。 ・5年生の学習を進めるにあたり小数、分数の意味の確認や既習事項を復習する時間を作る。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●複雑な図形の面積の求め方、三角定規の角度を理解しているかをみる問題では市・県平均値を約10ポイント下回り、課題が残った。また、作図が正確にできていない児童が多い。	・面積について数字と実際の大きさを照らし合わせるように身近な場所をつかって、体験的な学習を取り入れていく。 ・図形に合わせた面積の公式や単位の定着を図る。 ・定規やコンパスを使う機会を増やし、道具に慣れるようにする。 ・朝の学習の時間に、作図のプリント学習を行う。
変化と関係	平均正答率は、県の平均より低い。 ●数量の関係をとらえ、正しく表された図を選択する問題では、市・県の平均を約15ポイント下回った。 ●「2つの量の変わり方」に課題が見られ、比例の関係を理解していない児童が多い。	・立式を行う場合は、表や図、数直線の見方や立式につながる活用の仕方を丁寧に指導し、授業を展開していく。 ・授業において、文章や表から数量の意味を読み取り、分かることを自分の言葉で説明する場を設定する。
データの活用	平均正答率は、県の平均より低い。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る問題では、平均正答率は、市・県の平均を2～4ポイント上回った。 ●「折れ線グラフと表」は、グラフの特徴を読み取ることに課題が残った。	・グラフの特徴を読み取れるよう、縦軸、横軸の数値の意味について再度指導を行い、定着を図るようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	33.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	55.7	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	71.6	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	61.9	69.5	68.1
観点	知識・技能	62.7	70.8	69.5
	思考・判断・表現	50.8	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「並列つなぎの名称を答える」問題においては、正答率が35.2%であり、市の平均値を22.7ポイント下回っている。そのうちの無回答率が10.2%であり、市の無回答率より5.3ポイント下回った。 ●電流の向きや電流の大きさに関する問題では無回答率が25%であり、簡易検流計の読み方や電流の流れについての理解度に課題が見られた。	・電流の実験など具体的な操作を通し、実感を伴って理解したり、それぞれの名称を覚えたりすることができるように指導していき、定着を図っていく。 ・AIDリルを活用し繰り返し問題を解いたり、ICTを活用したりして視覚的効果を生かした学習を進められるよう指導する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「金属のあたたまり方」に関する問題では、県の正答率とほぼ同じであった。 ●「物のあたたまり方」において、市の平均値を15.2ポイント下回っている。特に、あたためられた空気の動き方についての問題では、無回答が31.8%であり、市の無回答率より12.1ポイント下回った。 ●「物の体積の変化」の問題では、正答率が59.1%であり、市より12.8%下回った。	・理科の授業において、仮設、実験、結果、考察の流れを意識した授業づくりに努め、日々の生活と関連付けながら科学的な思考力を育てていく。 ・AIDリルを活用し繰り返し問題を解いたり、ICTを活用したりして視覚的効果を生かした学習を進められるよう指導する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「動物のからだのつくりと運動」は、75.0%で市・県の正答率より約1ポイント上回った。 ○「1年間の動物のようす」「天気のように気温」は県の正答率とほぼ同じであった。 ●「1年間の植物の成長」のサクラの様子を選択する問題では、47.7%で市の正答率より13.4ポイント下回っている。	・実際に植物を育てたり、ICTを用いて映像教材を活用したりして、観察・体験を通し、実感を伴って理解できるように指導することで定着を図っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「結露現象の理解」は、56.8%で県の正答率とほぼ同じであった。 ●「雨水のゆくえ」排水口が作られているところはどうかになっているか理由を説明する問題では、30.7%で市の平均より約9ポイント下回っている。また無回答が31.8%で市の無回答率より12.8ポイント上回っている。	・文章問題や説明する問題では、最初から諦めて回答しない児童が多いので、何度も文章を読み、自分の思考の根拠を適切な言葉で表現し、記述できるように日々、指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は98.9%、「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は、94.6%と、県の平均と比べて学習の重要性を理解している児童が多い。今後も、宿題や自主学習の充実や学習内容と普段の生活を結びつける支援を継続して行い、学習意欲を高め、学力の向上も目指していきたい。

○「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は92.5%と多く、学習に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。今後も、児童が意欲をもてるような学習展開の工夫や学習形態の工夫を行うことで、さらに意欲を高めていきたい。

○「毎日の生活がじゅう実していると感じている」と回答した児童の割合は90.3%、「人と話すことは楽しい」と回答した児童の割合は95.7%と多く、家庭や学校において、毎日の生活が楽しく過ごせている様子がうかがえる。今後も、家庭とも連携を図りながら、充実した毎日の生活の中で、安全で楽しい学校生活が過ごせるよう継続していきたい。

○「学校での役わりや係の仕事にせきになをもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は95.7%と多い。今後も、学級内の係活動や委員会活動だけでなく、高学年としての意識をもち、縦割り班活動などで下学年の面倒もみながら活動できるよう支援を続けていきたい。

●「毎日、朝食を食べている。」と回答した児童の割合は91.4%で、9割を超えているが、市や県の平均と比べて約3ポイント程度低くなっている。学級活動や給食指導、食育だよりや保健だよりなどでの家庭への啓蒙活動をさらに推進し、今後も食育に関する指導の充実に努めていきたい。

●「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童は76.3%で、県平均と比べて-3.4ポイント、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童の割合は59.1%で、県平均と比べて-3.8ポイントと、自己肯定感の低さが見られた。係活動や委員会活動などでの活躍している児童へ個別に称賛するとともに、学級内においてもお互いに認め合う活動を充実させ、自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立晃宝小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究 ○基礎・基本の定着	○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で取り組んでいる。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で研究している。 ○単元のプレテストやまとめテストで児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行っている。	○「授業を集中して受けている」という質問の肯定的回答率は、4年生、5年生ともに90%を超えている。 ○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。」という質問の肯定的回答率は、4年生が62.7%で5年生は79%だった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着	○基礎・基本の定着を目指した学習指導の工夫	○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、AIDリル等を授業や朝の学習、家庭学習で活用していく。 ○授業でのICTの効果的な活用について研修を深める。